

# 参加者の傾向（ボラパック全体）

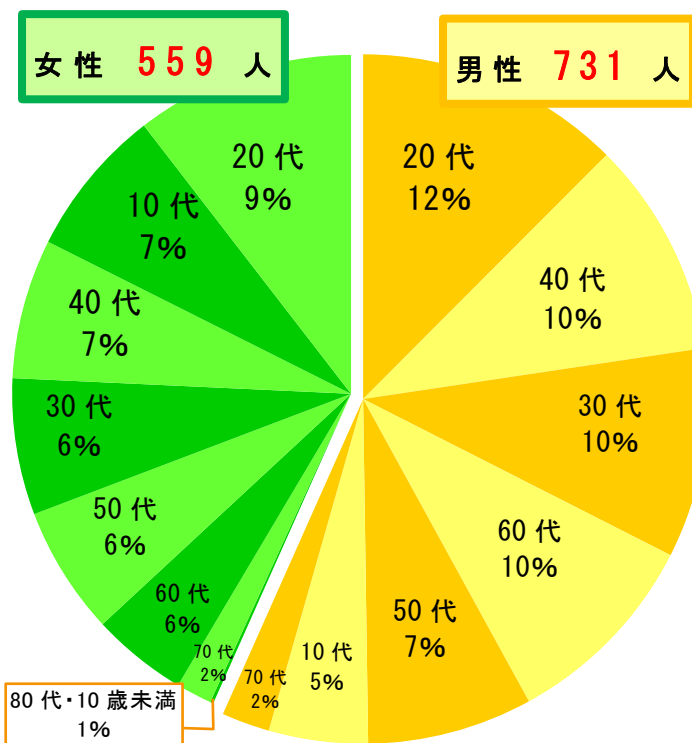
ボラパックⅠ参加人数  
(平成23年4月～平成23年11月) **648人**

ボラパック  
総参加人数 **1290人**

ボラパックⅡ参加人数  
(平成24年4月～平成25年9月) **642人**

日別活動総人数 **4955人**

## ●参加者統計（性別／年代別）



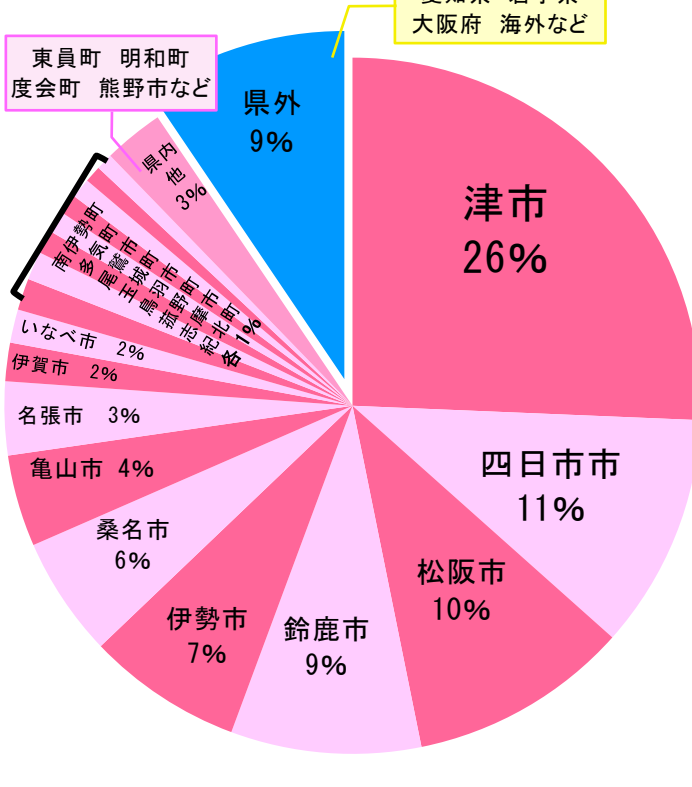
## ●活動ニーズとボランティア

ボラパックⅠでは主に屋外作業が多く、ボランティアも男性が圧倒的に多く参加してくださいました。ボラパックⅡではサロン活動を中心としていたため、女性のボランティアも多く参加いただけるようになりました。結果として、ボランティアニーズに応じて男女に大差なく活躍いただくことができました。

## ●世代を越えたチームの絆

ボラパック運行当初は危険を伴う作業も多くあり、18歳以上の方のみに限られていた参加も、ボラパックⅡからは保護者同伴で年齢制限なく参加いただけるようになり、参加者の年齢層も幅広くなりました。最年少は9歳、最年長は81歳と、世代を超えてのチームづくりは各便の色を彩る重要な要素でした。ボラパック2年半を通して、ボラパックに参加しなければ交わることのなかったであろうチームのメンバーとの出会いは、今後も続く確かな絆となっています。

## ●参加者統計（住所別）



## ●三重県民の意識

2年半を通して、発着地である津市からの参加者が圧倒的に多く、次点の市町は流動的でした。近隣の県外からの参加者も徐々に増える中、常に県内からの参加者が9割を占めていたことを大変誇りに思います。全国的に被災地へのツアーなどが減少していく中で、継続して運行しているボラパックは県外の方々からも強い支持をいただきました。県内の方々が進切れることないように意識高く参加していただいたおかげです。

## ●広がるみえボラの輪

ボラパック開始当初は三重県在住・勤務している方に限定して募集し殺到するボランティアを制限しました。ボラパックⅠ第6便より募集制限を解消したところ、県外からの参加も多数ありました。三重県内はもちろん、全国にみえボラによって築かれたネットワークが広がっています。山田町へ馳せる想いとみえボラという共通の認識が、今後の災害ボランティア活動に大きな原動力となることと確信しています。

ボラパックⅠ  
最多リピーター  
全5回

ボラパックⅠ 第3・9・20・30・35便  
ボラパックⅡ 第27・30・33便  
堀井 理さん



平成23年5月より11月まで合計5回参加し、四季折々の変化も体感しました。被災地域の住民の方と直接お話しする機会は少なかったですが、東北地方の方々の礼儀正しさ、粘り強さに感銘を受けました。ボラパックを通して、地域の方、ボランティア仲間同士で信頼関係を築く共助の持つ役割の重要性を痛感しました。

今後大きな災害が発生した時には、今回得た知識・運営のノウハウを活かして、災害ボランティアとして取り組んでいきたいと思ひます。

ボラパックⅠ 第21・31便  
ボラパックⅡ 第2・8・10・21・28・30・35便  
浅井 剛史さん

ボラパックⅡ  
最多リピーター  
全7回



2年4ヶ月の山田町との関わりは様々な経験や出会いの数々でした。大震災が風化しつつある中、その対極にある「忘れない」「関わりを切らさない」人々の存在を感じることができました。そうした方々と連帯して、まずは山田町からいただいたバトン（震災への備え）を確実に伝え、拮げ、確かなものにします。自分にできることは公私ともに人に接する機会の多い立場を利用して数多く発信し、ボランティア活動も続けることです。

最年長 **81** 歳

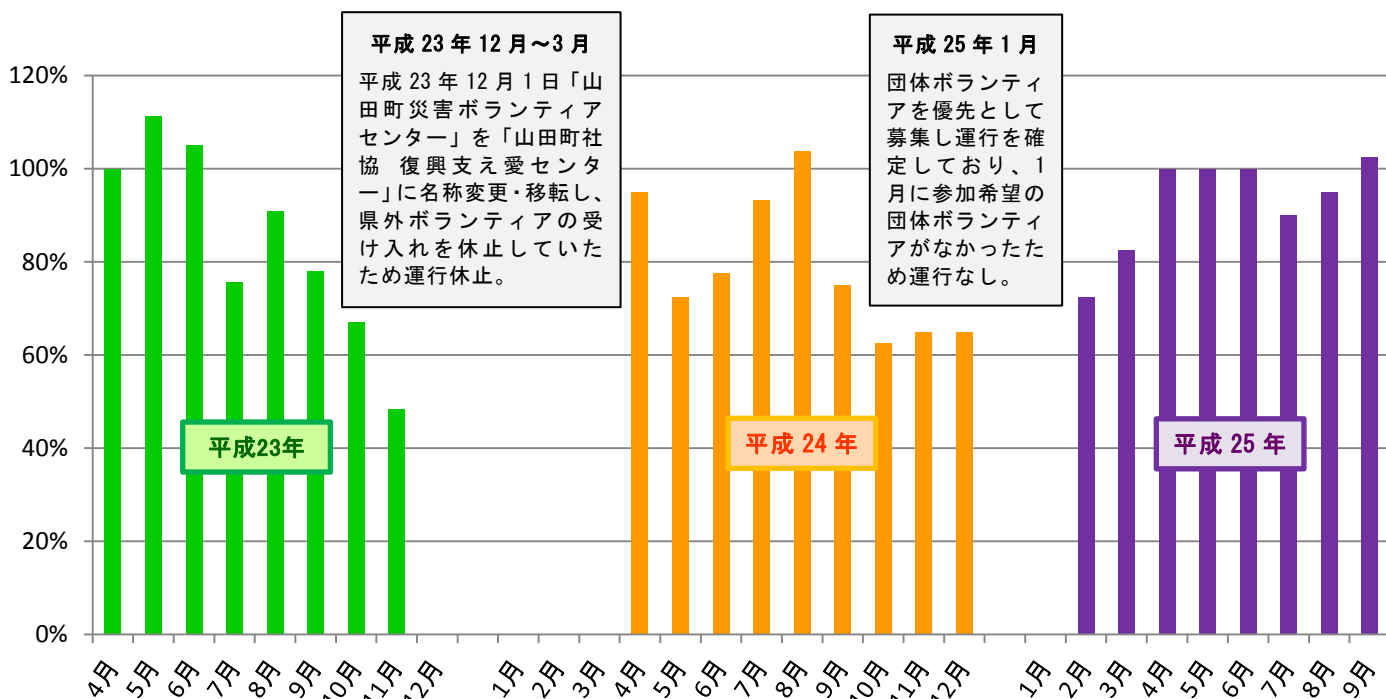
最年少 **9** 歳

リピーター人数 (実数)

**139** 人

※ボラパックⅠ・Ⅱを通して2回以上参加された方

●定員数に対する参加者数の割合



平成23年12月～3月

平成23年12月1日「山田町災害ボランティアセンター」を「山田町社協 復興支え愛センター」に名称変更・移転し、県外ボランティアの受け入れを休止していたため運行休止。

平成25年1月

団体ボランティアを優先として募集し運行を確定しており、1月に参加希望の団体ボランティアがなかったため運行なし。

●季節ごとの変化

季節や時期により、参加者数の変動が目立ちました。秋から冬にかけての参加者はなかなか集まらず、初年度は2つの便（ボラパックⅠ第35便と特別便）の同乗とするなどの対策をとりました。温度差や積雪等への懸念が多く感じられ、冬場にはバスを出せる回数が増減してしまっただけでなく、原因にあると思われる。また逆に、夏休みや春休みの時期には学生や学校関係の方の参加が多く、便数の増加へと繋がりました。

●経過による変化

発災から時間が過ぎるほどに、現地の状況や活動ニーズの変化があると共にボランティアの意識にも変化が出てきています。発災直後は、参加希望者が殺到し参加可否を抽選で決めなければいけない状態でしたが、バスの本数・定員が減っても定員数に満たないことも増えていきました。

また、ボラパックⅠからⅡへの切り替え時には、新たな試みを開始するにあたり、活動形態がボランティアの皆さんに十分に伝えきれず、参加団体・参加者の伸び悩みとなりました。ボラパックⅡを試行錯誤しながら継続していく中で、活動形態がボランティアの皆さんに徐々に浸透し始めたことにより、安定した参加者数を集めることができるようになりました。更に、時を重ねるごとにみえボラのリピーターも増え、ボランティア同士の連携により集まっていたことは大変ありがたく思います。